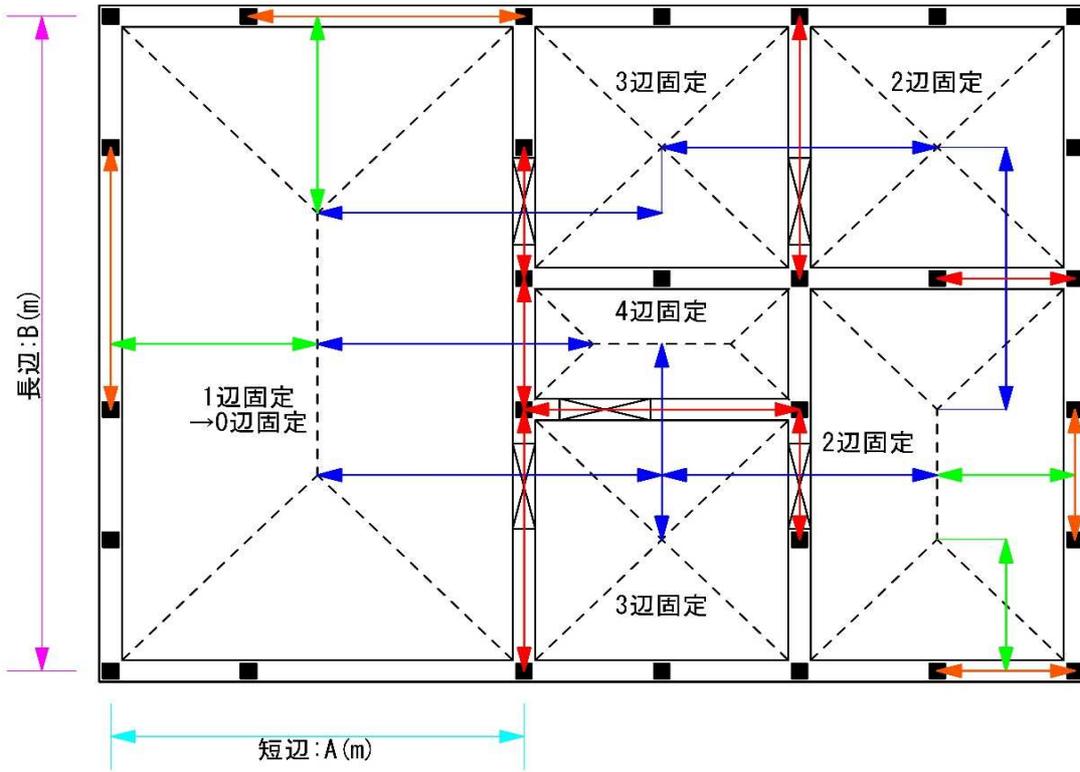


スパン表の読み方



- ←→ スパン: C (m)
- ←→ 負担幅: D (m)
- ←→ スパン: E (m)
- ←→ 負担幅: F (m)

基礎梁のプラン表

小屋裏収納なし

地中梁配筋 算定用分布荷重 : w2 = 7.00 (kN/m²)

外周部

	負担幅:D(m)								
プラン:C(m)	0.455	0.910	1.365	1.820	2.275	2.730	3.185	3.640	
0.910	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1
1.365	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1
1.820	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1
2.275	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1A	FGu1A	FGu1A
2.730	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1A	FGu1A	FGu1A	FGu1B	FGu1B
3.185	FGu1	FGu1	FGu1A	FGu1A	FGu1B	FGu1C	FGu1C	FGu1C	FGu1C
3.640	FGu1	FGu1	FGu1A	FGu1B	FGu1C	FGu1C	FGu1C	FGu1C	NG
4.095	FGu1	FGu1A	FGu1B	FGu1C	FGu1C	NG	NG	NG	NG
4.550	FGu1	FGu1A	FGu1C	FGu1C	NG	NG	NG	NG	NG

内部

	負担幅:F(m)									
プラン:E(m)	-	0.910	1.365	1.820	2.275	2.730	3.185	3.640	4.550	
0.910	-	FGu2								
1.365	-	FGu2								
1.820	-	FGu2	FGu2	FGu2	FGu2	FGu2	FGu2A	FGu2A	FGu2A	FGu2A
2.275	-	FGu2	FGu2	FGu2	FGu2A	FGu2A	FGu2B	FGu2B	FGu2B	FGu2C
2.730	-	FGu2	FGu2A	FGu2A	FGu2B	FGu2C	FGu2C	FGu2C	FGu2F	FGu2G
3.185	-	FGu2	FGu2A	FGu2B	FGu2C	FGu2C	FGu2C	FGu2G	FGu2G	NG
3.640	-	FGu2A	FGu2B	FGu2C	FGu2C	FGu2G	FGu2G	FGu2G	NG	NG
4.095	-	FGu2A	FGu2C	FGu2C	FGu2G	NG	NG	NG	NG	NG
4.550	-	FGu2B	FGu2C	FGu2G	NG	NG	NG	NG	NG	NG

人通口補強部

FGu5~5B かぶり厚:150-60(下端主筋最小かぶり厚)-14(D13)/2=83→83mm

	負担幅:F(m)									
プラン:E(m)	-	0.910	1.365	1.820	2.275	2.730	3.185	3.640	4.550	
0.910	-	FGu5	FGu5B	FGu5B						
1.365	-	FGu5	FGu5	FGu5	FGu5B	FGu5B	FGu21	FGu21	FGu21	FGu21
1.820	-	FGu5	FGu5	FGu5B	FGu5B	FGu21	FGu21A	FGu21A	FGu21A	FGu21A
2.275	-	FGu5	FGu5B	FGu5B	FGu21A	FGu21A	FGu21B	FGu21B	FGu23A	FGu23A
2.730	-	FGu5A	FGu5B	FGu21A	FGu21B	FGu21B	FGu23A	FGu23B	FGu23B	FGu23B
3.185	-	FGu5B	FGu21A	FGu21B	FGu21B	FGu23B	FGu23B	FGu23B	FGu24	FGu24
3.640	-	FGu21A	FGu21B	FGu23A	FGu23B	FGu23B	FGu24	FGu24	NG	NG
4.095	-	FGu21A	FGu21B	FGu23B	FGu23B	FGu24	FGu24	NG	NG	NG
4.550	-	FGu21B	FGu23A	FGu23B	FGu24	NG	NG	NG	NG	NG

基礎梁のパン表

小屋裏収納あり

地中梁配筋 算定用分布荷重 : w2 = 10.50 (kN/m²)

外周部

		負担幅:D(m)							
パンC(m)	0.455	0.910	1.365	1.820	2.275	2.730	3.185	3.640	
0.910	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1
1.365	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1
1.820	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1A	FGu1A	
2.275	FGu1	FGu1	FGu1	FGu1A	FGu1A	FGu1A	FGu1B	FGu1C	
2.730	FGu1	FGu1	FGu1A	FGu1A	FGu1B	FGu1C	NG	NG	
3.185	FGu1	FGu1A	FGu1A	FGu1C	FGu1C	NG	NG	NG	
3.640	FGu1	FGu1A	FGu1B	FGu1C	NG	NG	NG	NG	
4.095	FGu1	FGu1B	FGu1C	NG	NG	NG	NG	NG	
4.550	FGu1A	FGu1C	FGu1C	NG	NG	NG	NG	NG	

内部

		負担幅:F(m)								
パンE(m)	-	0.910	1.365	1.820	2.275	2.730	3.185	3.640	4.550	
0.910	-	FGu2	FGu2	FGu2	FGu2	FGu2	FGu2	FGu2	FGu2	FGu2
1.365	-	FGu2	FGu2	FGu2	FGu2	FGu2	FGu2	FGu2A	FGu2D	FGu2D
1.820	-	FGu2	FGu2	FGu2	FGu2A	FGu2A	FGu2A	FGu2E	FGu2F	FGu2F
2.275	-	FGu2	FGu2A	FGu2A	FGu2B	FGu2E	FGu2F	FGu2G	NG	NG
2.730	-	FGu2A	FGu2A	FGu2C	FGu2F	FGu2G	NG	NG	NG	NG
3.185	-	FGu2A	FGu2C	FGu2C	FGu2G	NG	NG	NG	NG	NG
3.640	-	FGu2B	FGu2C	FGu2G	NG	NG	NG	NG	NG	NG
4.095	-	FGu2C	FGu2G	NG						
4.550	-	FGu2C	FGu2G	NG						

人通口補強部

FGu5~5B かぶり厚:150-60(下端主筋最小かぶり厚)-14(D13)/2=83→83mm

		負担幅:F(m)								
パンE(m)	-	0.910	1.365	1.820	2.275	2.730	3.185	3.640	4.550	
0.910	-	FGu5	FGu5	FGu5	FGu5B	FGu5B	FGu5B	FGu21	FGu21	FGu21
1.365	-	FGu5	FGu5	FGu21	FGu21	FGu21	FGu21	FGu21A	FGu23	FGu23
1.820	-	FGu5	FGu5A	FGu21	FGu21A	FGu21A	FGu23	FGu23A	FGu23A	FGu23A
2.275	-	FGu5A	FGu21A	FGu21A	FGu21B	FGu23A	FGu23A	FGu23B	FGu23B	FGu23B
2.730	-	FGu5B	FGu21A	FGu21B	FGu23A	FGu23B	FGu23B	FGu23B	FGu24	FGu24
3.185	-	FGu21A	FGu21B	FGu23B	FGu23B	FGu24	FGu24	NG	NG	NG
3.640	-	FGu21B	FGu23A	FGu23B	FGu24	FGu24	NG	NG	NG	NG
4.095	-	FGu21B	FGu23B	FGu24	NG	NG	NG	NG	NG	NG
4.550	-	FGu23B	FGu24	NG						

使用材料・強度

使用材料

コンクリート：Fc=18 N/mm² スラブ 18 cm

鉄筋：D10~D16:SD295 A

※ S-01を要確認

■ 鉄筋のかぶり厚さ (単位: mm)

構造部分	最小かぶり厚さ (mm)	設計かぶり厚さ (mm)
土に接しない床スラブ・屋根スラブ・非耐力壁(屋外)	30	40
土に接する耐力壁・床スラブ・布基礎の立上り部分・基礎つなぎ梁	40	50
基礎 (捨コンクリート部分を除く)	60	70

■ 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

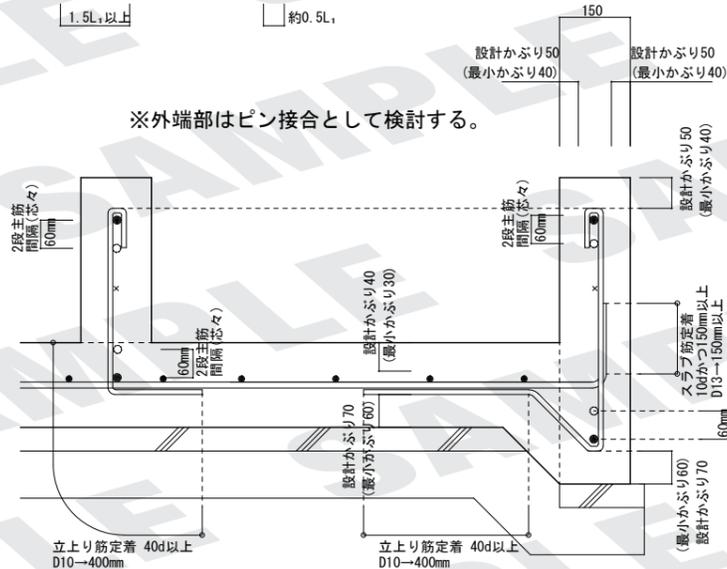
鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm ²)	定着の長さ		特別の定着及び重ね継手の長さ (L ₁)
		一般 (L ₂)	下端筋 (L ₃) 床・屋根スラブ	
SD295A	18	40d または 30d フックつき	10d かつ 150mm以上	45d または 35d フックつき

継手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする (重ね継手(下図のいずれかのようにする))

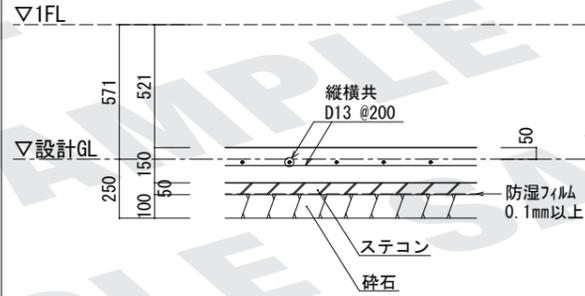


※外端部はピン接合として検討する。

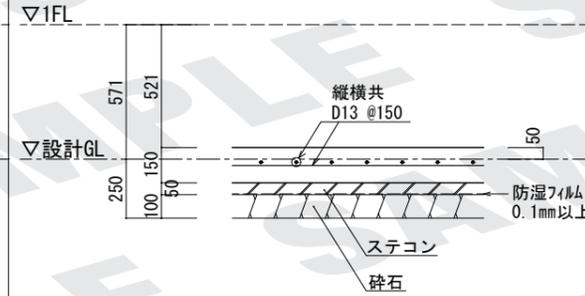


- ※現場組鉄筋の場合は、縦筋端部をフック付し、必要な定着を設けることとする。
 認定ユニット鉄筋の場合は、縦筋端部のフックの省略が可能。
 認定ユニット鉄筋の規定を順守すること。
 ※基礎断面図はユニット鉄筋として作図してあります。
 ※床付面は地盤面を荒らさぬように注意すること。
 床付面は既存状況により荒らされた場合、現場の状況により捨てコンクリート厚を増すこと。
 ※捨てコンクリート・砕石地業の厚さ・有無は施工者の判断による。
 ※捨てコンクリートを省略する場合、以下に注意すること。
 ①不陸差による型枠・鉄筋の高さ位置を正しく決めるのが困難なため、
 型枠・鉄筋を保持する台などを設ける
 ②根切り底面の安定化を図るため砂・砂利・砕石を十分に締め固め、表面を平滑に仕上げる
 ③根砂・砂利・砕石が乾燥しているときなど、コンクリートが急激に脱水されてしまうおそれがある場合は散水する。
 ④規定のスラブ厚を確保する。

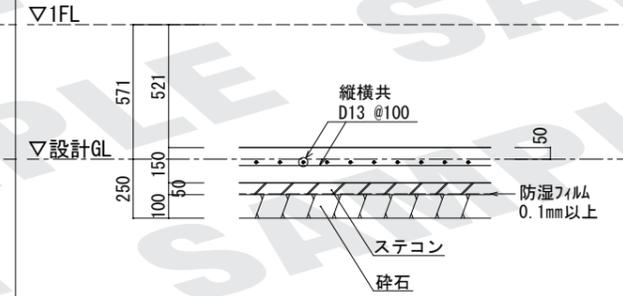
FS1



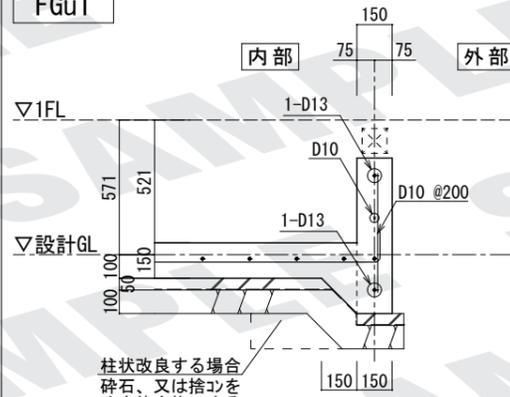
FS2



FS3

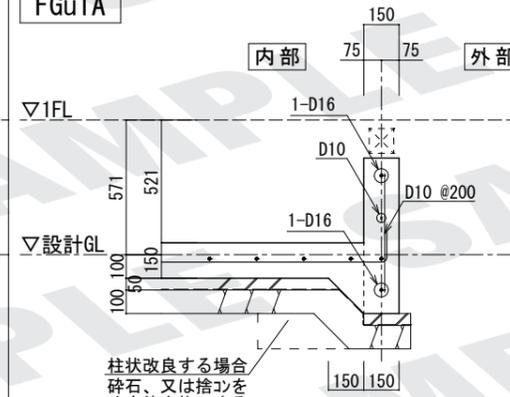


FGu1



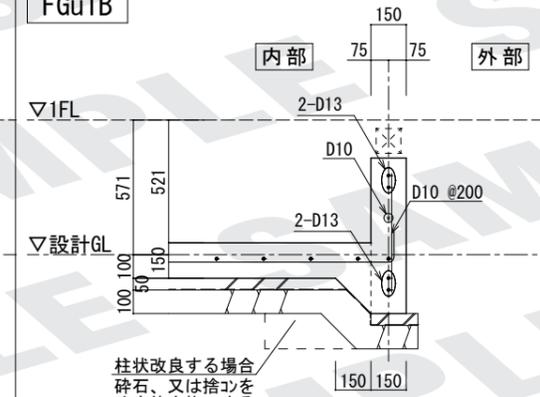
柱状改良する場合
砕石、又は捨コンを
改良体巾施工する

FGu1A



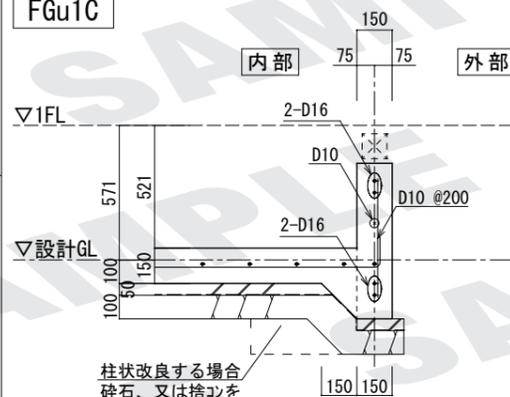
柱状改良する場合
砕石、又は捨コンを
改良体巾施工する

FGu1B



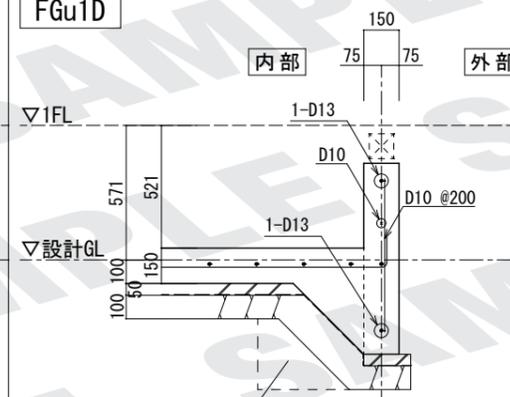
柱状改良する場合
砕石、又は捨コンを
改良体巾施工する

FGu1C



柱状改良する場合
砕石、又は捨コンを
改良体巾施工する

FGu1D



柱状改良する場合
砕石、又は捨コンを
改良体巾施工する

施主承諾	営業	設計	工事	訂正図面作成日	MEMO
				訂正日 H	
				訂正日 H	
				訂正日 H	
				訂正日 H	

PROJECT TITLE	SHEET NO
DRAWING TITLE	SCALE
基礎断面図(1)	S=1/30
	S-07a

使用材料・強度

使用材料

コンクリート：Fc=18 N/mm² スラブ 18 cm

鉄筋：D10~D16:SD295 A

※ S-01を要確認

■ 鉄筋のかぶり厚さ (単位: mm)

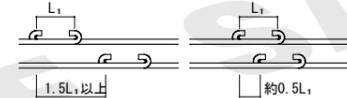
構造部分	最小かぶり厚さ (mm)	設計かぶり厚さ (mm)
土に接しない床スラブ・屋根スラブ・非耐力壁(屋外)	30	40
土に接する耐力壁・床スラブ・布基礎の立上り部分・基礎つなぎ梁	40	50
基礎 (捨コンクリート部分を除く)	60	70

■ 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm ²)	定着の長さ		特別の定着及び重ね継手の長さ (L ₁)
		一般 (L ₂)	下端筋 (L ₃) 床・屋根スラブ	
SD295A	18	40d または 30d フックつき	10d かつ 150mm以上	45d または 35d フックつき

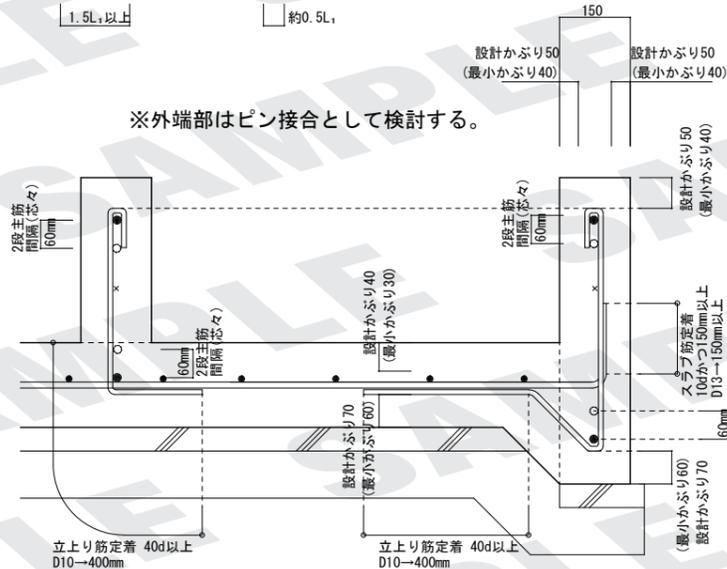
継手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
重ね継手(下図のいずれかのようにする)



施行令の重ね継手の長さ40dでも可

※外端部はピン接合として検討する。



※現場組鉄筋の場合は、縦筋端部をフック付し、必要な定着を設けることとする。

認定ユニット鉄筋の場合は、縦筋端部のフックの省略が可能。

認定ユニット鉄筋の規定を順守すること

※基礎断面図はユニット鉄筋として作図してあります。

※床付面は地盤面を荒らさぬように注意すること。

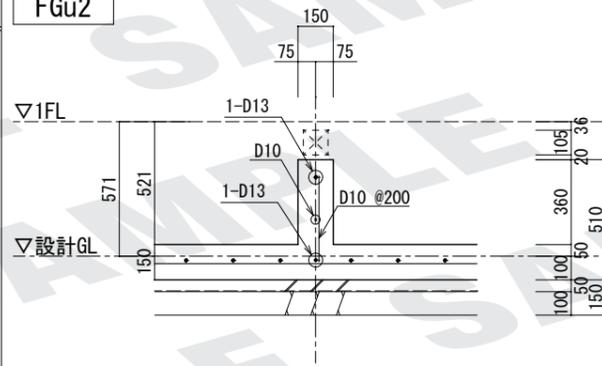
床付面は既存状況により荒らされた場合、現場の状況により捨てコンクリート厚を増すこと。

※捨てコンクリート・砕石地業の厚さ・有無は施工者の判断による。

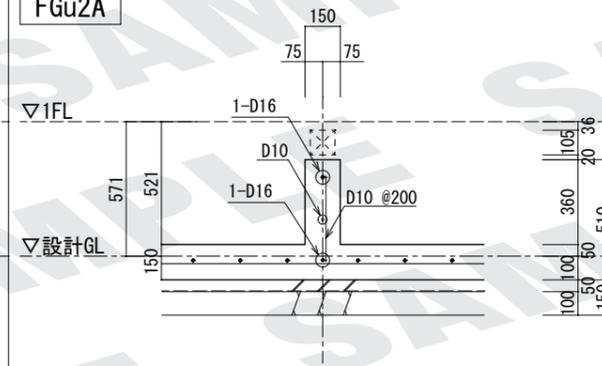
※捨てコンクリートを省略する場合、以下に注意すること。

- ① 不陸差による型枠・鉄筋の高さ位置を正しく決めるのが困難なため、型枠・鉄筋を保持する台などを設ける
- ② 根切り底面の安定化を図るため砂・砂利・砕石を十分に締め固め、表面を平滑に仕上げる
- ③ 根砂・砂利・砕石が乾燥しているときなど、コンクリートが急激に脱水されてしまうおそれがある場合は散水する。
- ④ 規定のスラブ厚を確保する。

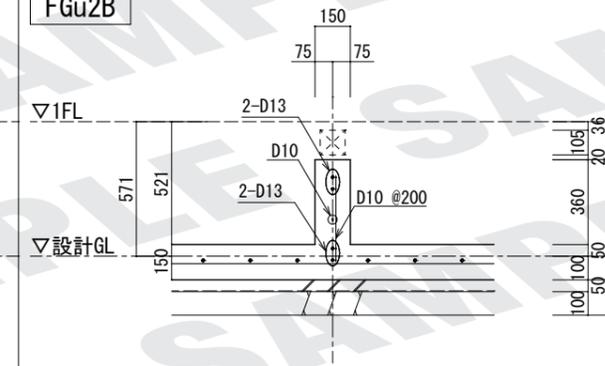
FGu2



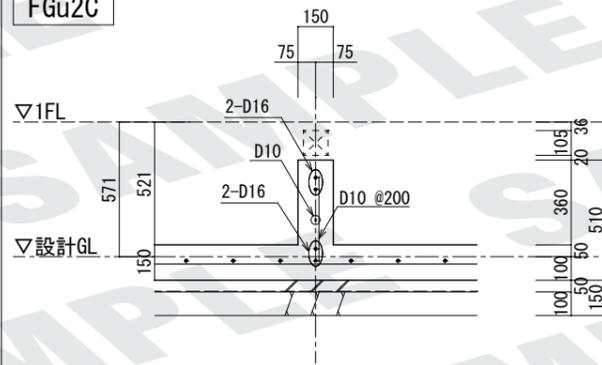
FGu2A



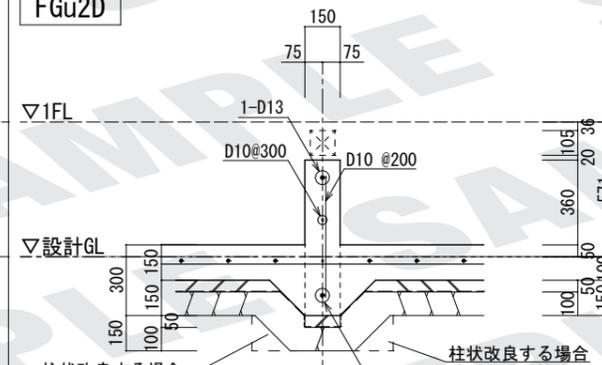
FGu2B



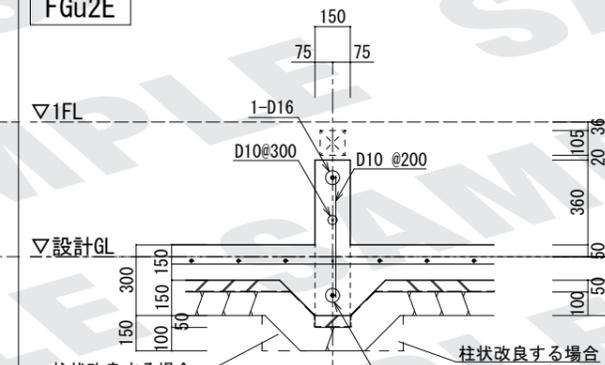
FGu2C



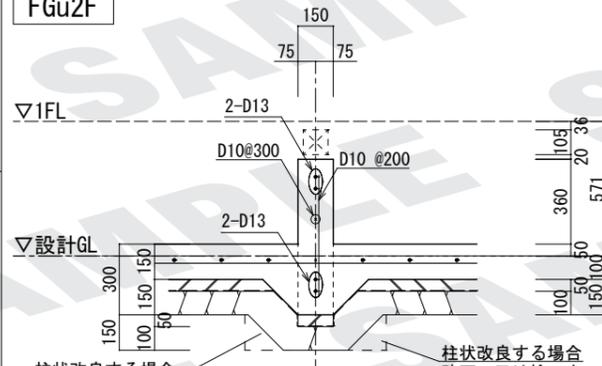
FGu2D



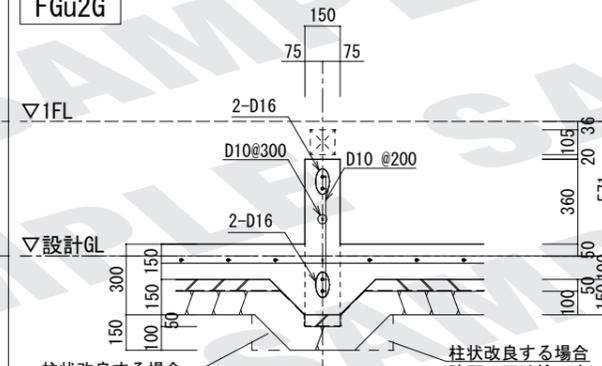
FGu2E



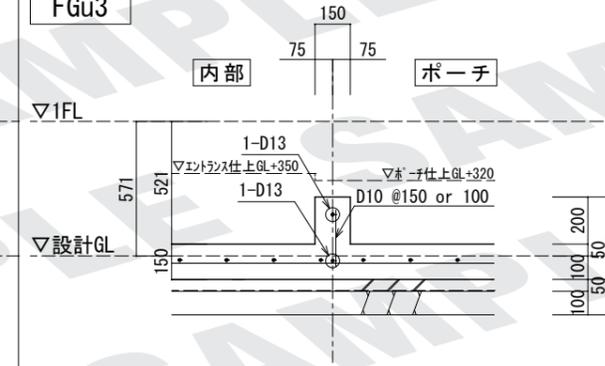
FGu2F



FGu2G



FGu3



DRAWING BY :	DATE : 2023/01/21	施主承諾	営業	設計	工事	訂正図面作成日	MEMO	PROJECT TITLE	SHEET NO
						訂正日 H			
						訂正日 H	DRAWING TITLE		SCALE S=1/30
						訂正日 H	基礎断面図(2)		
						訂正日 H			S-07b
						訂正日 H			

使用材料・強度

使用材料

コンクリート：Fc=18 N/mm² スランプ 18 cm

鉄筋：D10~D16:SD295 A

※ S-01を要確認

■ 鉄筋のかぶり厚さ (単位: mm)

構造部分	最小かぶり厚さ (mm)	設計かぶり厚さ (mm)
土に接しない床スラブ・屋根スラブ・非耐力壁(屋外)	30	40
土に接する耐力壁・床スラブ・布基礎の立上り部分・基礎つなぎ梁	40	50
基礎 (捨コンクリート部分を除く)	60	70

■ 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

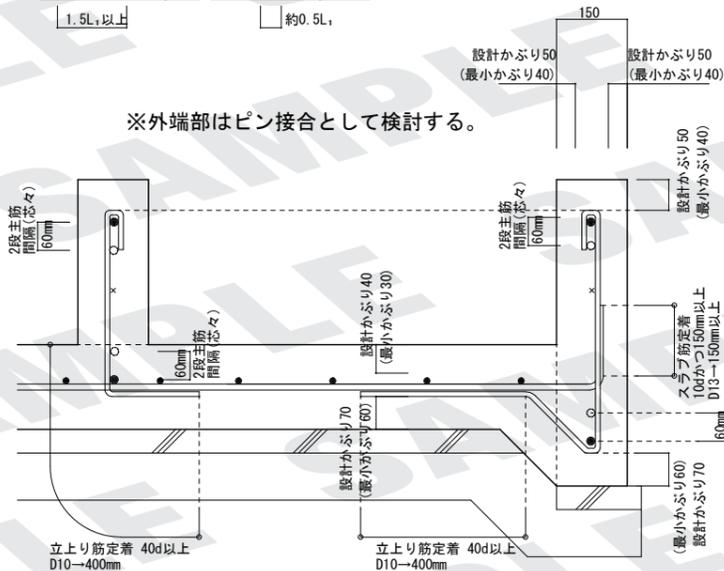
鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm ²)	定着の長さ		特別の定着及び重ね継手の長さ (L _i)
		一般 (L _s)	下端筋 (L _s) 床・屋根スラブ	
SD295A	18	40d または 30d フックつき	10d かつ 150mm以上	45d または 35d フックつき

継手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
重ね継手(下図のいずれかのようにする)

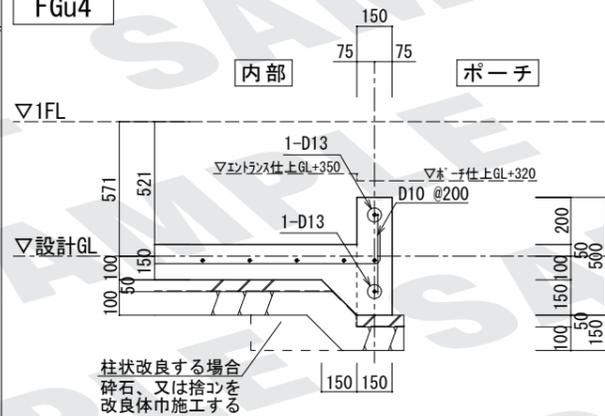


※外端部はピン接合として検討する。

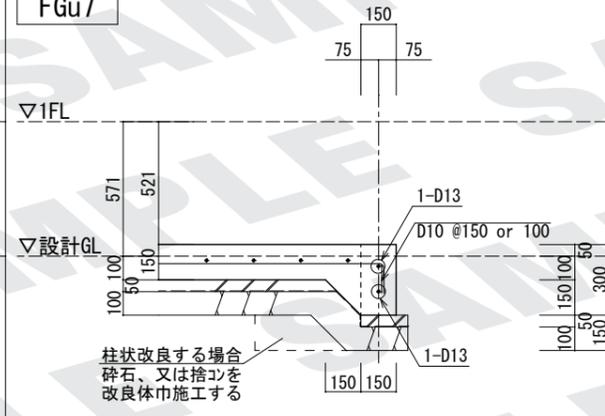


- ※現場組鉄筋の場合は、縦筋端部をフック付し、必要な定着を設けることとする。
認定ユニット鉄筋の場合は、縦筋端部のフックの省略が可能。
認定ユニット鉄筋の規定を順守すること。
※基礎断面図はユニット鉄筋として作図してあります。
※床付面は地盤面を荒らさぬように注意すること。
床付面は既存状況により荒らされた場合、現場の状況により捨てコンクリート厚を増すこと。
※捨てコンクリート・砕石地業の厚さ・有無は施工者の判断による。
※捨てコンクリートを省略する場合、以下に注意すること。
①陸差による型枠・鉄筋の高さ位置を正しく決めるのが困難なため、型枠・鉄筋を保持する台などを設ける
②根切り底面の安定化を図るため砂・砂利・砕石を十分に締め固め、表面を平滑に仕上げる
③根砂・砂利・砕石が乾燥しているときなど、コンクリートが急激に脱水されてしまうおそれがある場合は散水する。
④規定のスラブ厚を確保する。

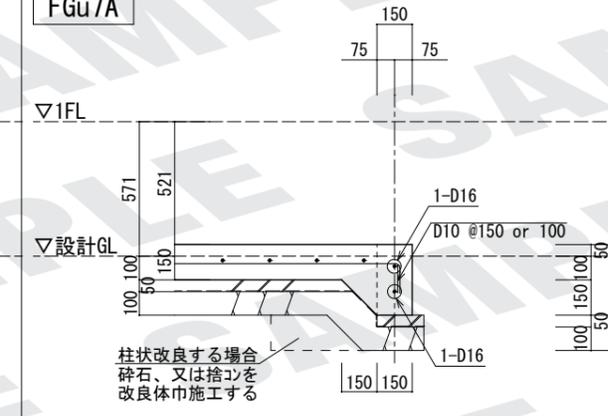
FGu4



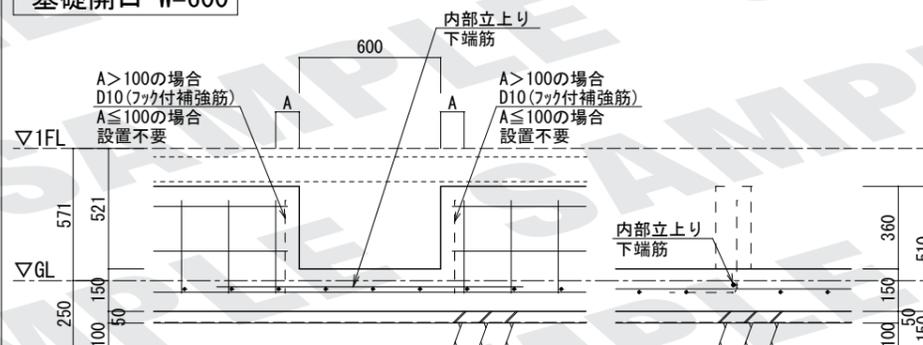
FGu7



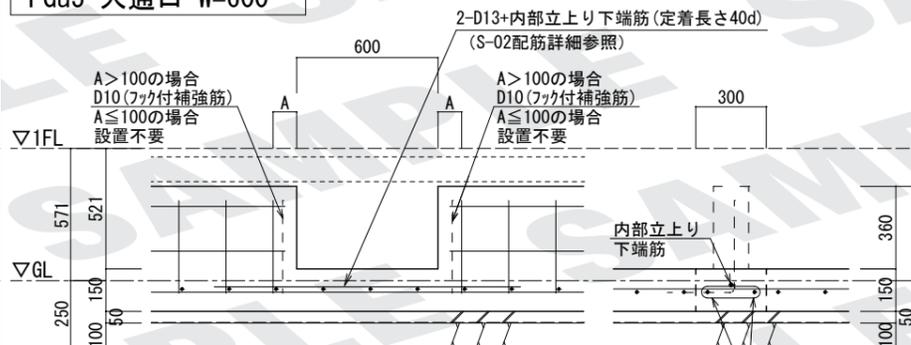
FGu7A



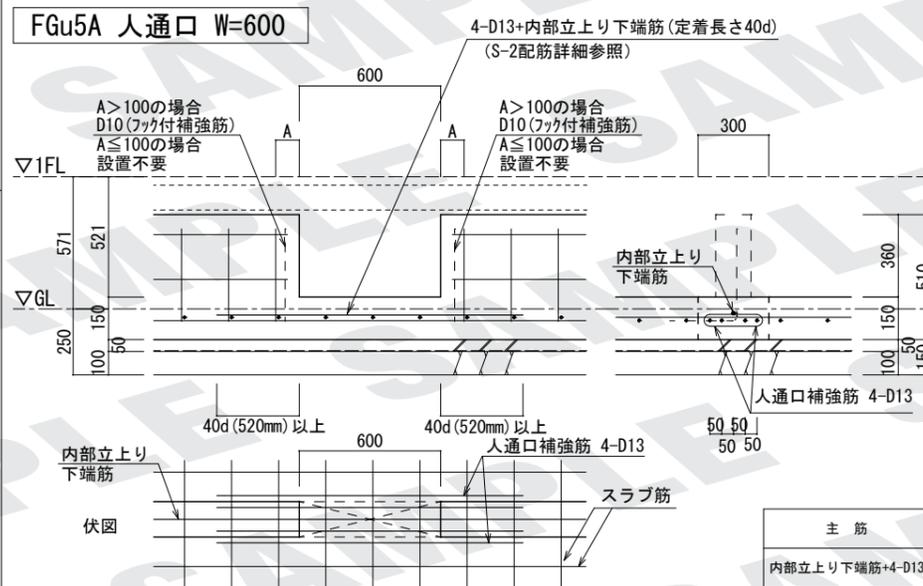
基礎開口 W=600



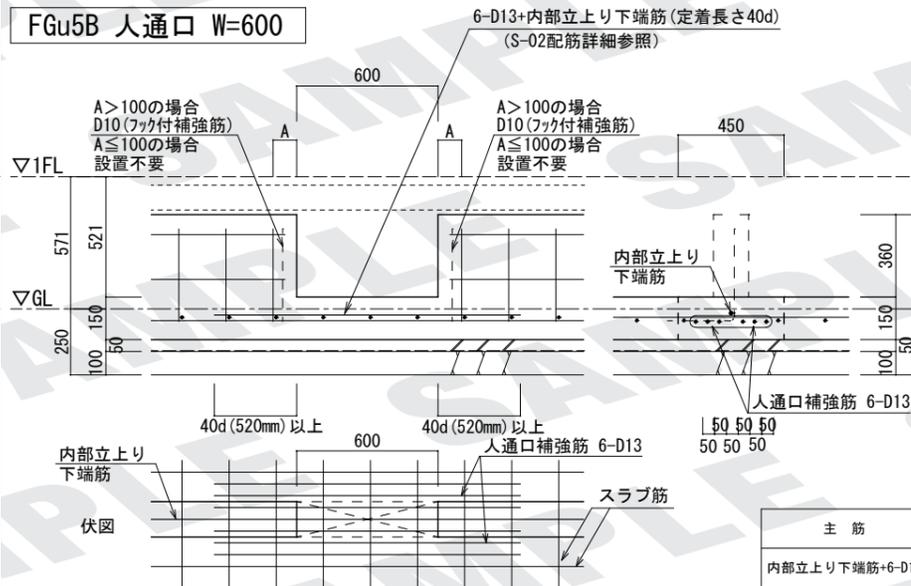
FGu5 人通口 W=600



FGu5A 人通口 W=600



FGu5B 人通口 W=600



施主承諾	営業	設計	工事	訂正図面作成日	MEMO	PROJECT TITLE	SHEET NO
				訂正日 H		DRAWING TITLE	
				訂正日 H		基礎断面図 (3)	S-07c
				訂正日 H		SCALE	S=1/30
				訂正日 H			

DRAWING BY :
DATE : 2023/01/21

使用材料・強度

使用材料

コンクリート：Fc=18 N/mm² スラブ 18 cm

鉄筋：D10~D16:SD295 A

※ S-01を要確認

■ 鉄筋のかぶり厚さ (単位: mm)

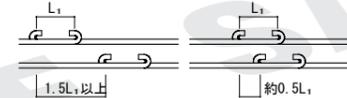
構造部分	最小かぶり厚さ (mm)	設計かぶり厚さ (mm)
土に接しない床スラブ・屋根スラブ・非耐力壁(屋外)	30	40
土に接する耐力壁・床スラブ・布基礎の立上り部分・基礎つなぎ梁	40	50
基礎 (捨コンクリート部分を除く)	60	70

■ 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm ²)	定着の長さ		特別の定着及び重ね継手の長さ (L ₁)
		一般 (L ₂)	下端筋 (L ₃) 床・屋根スラブ	
SD295A	18	40d または 30d フックつき	10d かつ 150mm以上	45d または 35d フックつき

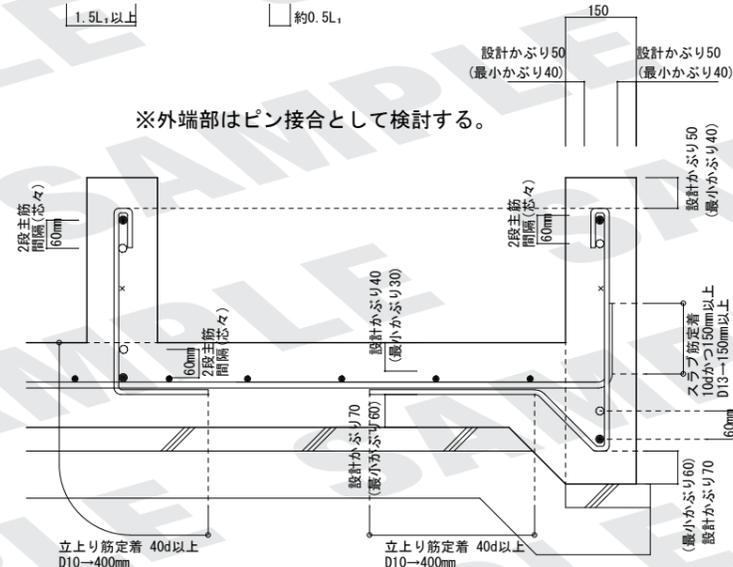
継手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする重ね継手(下図のいずれかのようにする)



施行令の重ね継手の長さ40dでも可

※外端部はピン接合として検討する。



※現場組鉄筋の場合は、縦筋端部をフック付し、必要な定着を設けることとする。

認定ユニット鉄筋の場合は、縦筋端部のフックの省略が可能。

認定ユニット鉄筋の規定を順守すること

※基礎断面図はユニット鉄筋として作図してあります。

※床付面は地盤面を荒らさぬように注意すること。

床付面は既存状況により荒らされた場合、現場の状況により捨てコンクリート厚を増すこと。

※捨てコンクリート・砕石地業の厚さ・有無は施工者の判断による。

※捨てコンクリートを省略する場合、以下に注意すること。

①不陸差による型枠・鉄筋の高さ位置を正しく決めるのが困難なため、

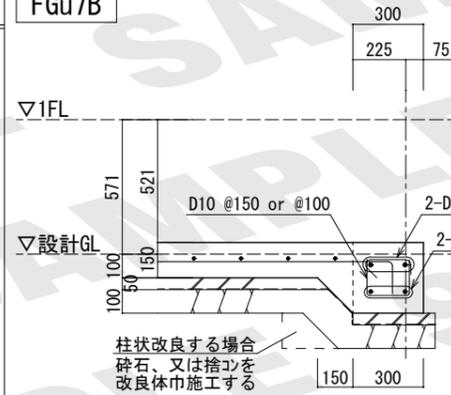
型枠・鉄筋を保持する台などを設ける

②根切り底面の安定化を図るため砂・砂利・砕石を十分に締め固め、表面を平滑に仕上げる

③根砂・砂利・砕石が乾燥しているときなど、コンクリートが急激に脱水してしまうおそれがある場合は散水する。

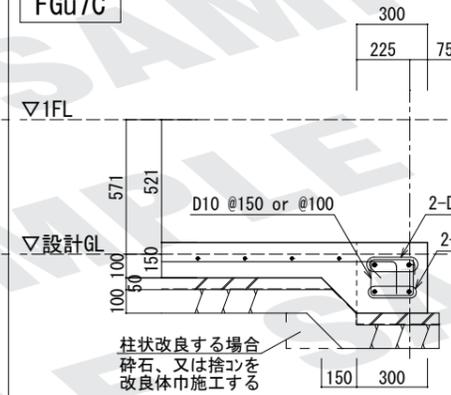
④規定のスラブ厚を確保する。

FGu7B



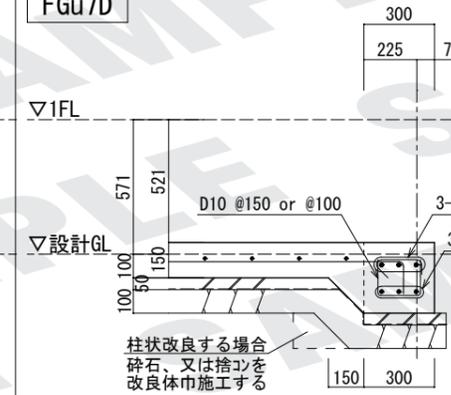
柱状改良する場合
砕石、又は捨コンを
改良体巾施工する

FGu7C



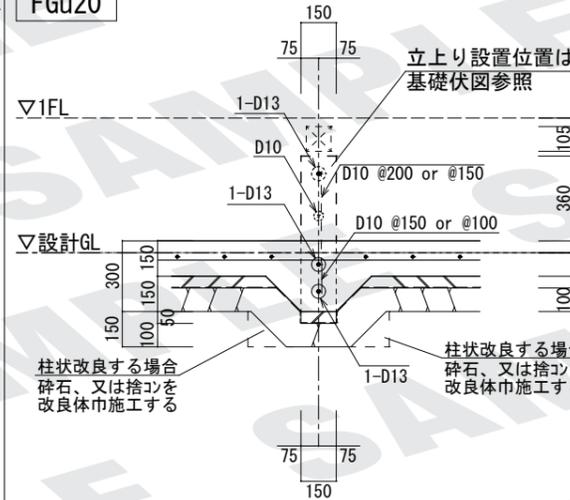
柱状改良する場合
砕石、又は捨コンを
改良体巾施工する

FGu7D



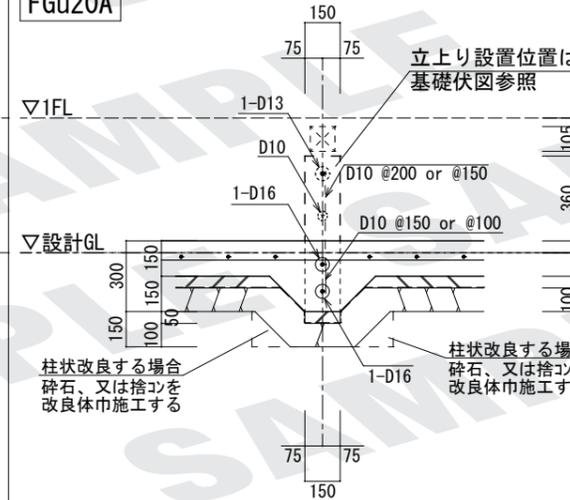
柱状改良する場合
砕石、又は捨コンを
改良体巾施工する

FGu20



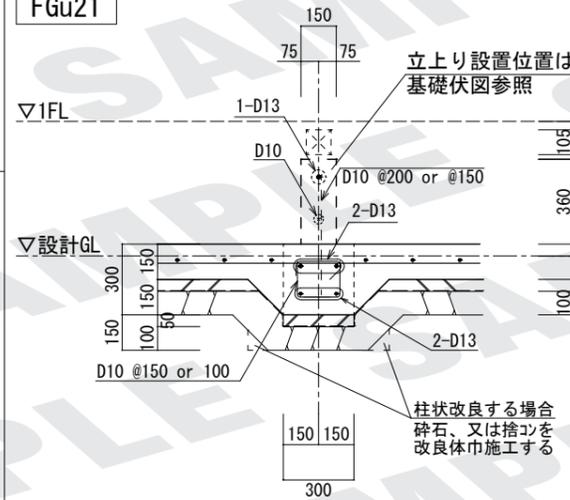
柱状改良する場合
砕石、又は捨コンを
改良体巾施工する

FGu20A



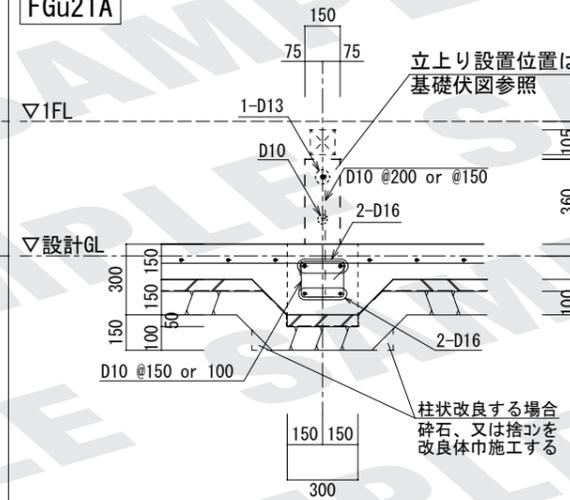
柱状改良する場合
砕石、又は捨コンを
改良体巾施工する

FGu21



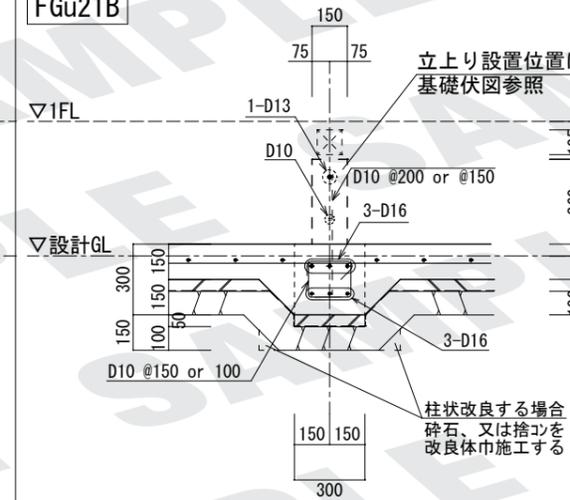
柱状改良する場合
砕石、又は捨コンを
改良体巾施工する

FGu21A



柱状改良する場合
砕石、又は捨コンを
改良体巾施工する

FGu21B



柱状改良する場合
砕石、又は捨コンを
改良体巾施工する

使用材料・強度

使用材料

コンクリート：Fc=18 N/mm² スラブ 18 cm

鉄筋：D10~D16:SD295 A

※ S-01を要確認

■ 鉄筋のかぶり厚さ (単位: mm)

構造部分	最小かぶり厚さ (mm)	設計かぶり厚さ (mm)
土に接しない床スラブ・屋根スラブ・非耐力壁(屋外)	30	40
土に接する耐力壁・床スラブ・布基礎の立上り部分・基礎つなぎ梁	40	50
基礎 (捨コンクリート部分を除く)	60	70

■ 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm ²)	定着の長さ		特別の定着及び重ね継手の長さ (L ₁)
		一般 (L ₂)	下端筋 (L ₃) 床・屋根スラブ	
SD295A	18	40d または 30d フックつき	10d かつ 150mm以上	45d または 35d フックつき

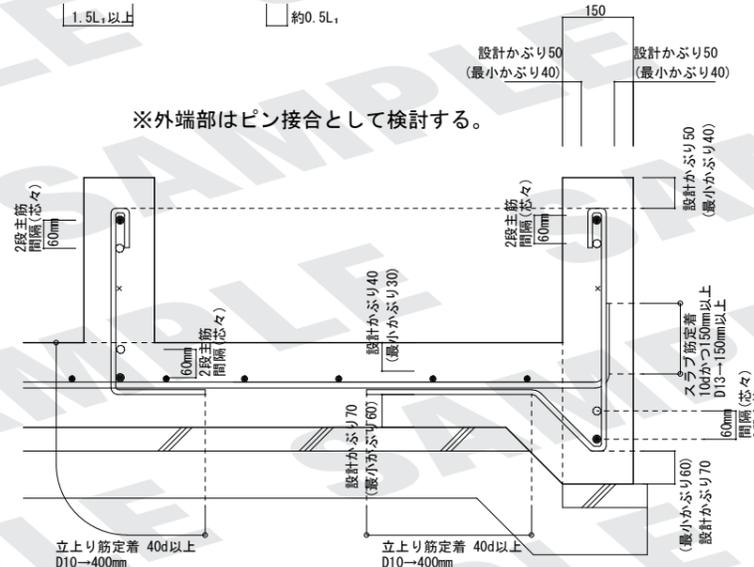
継手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする重ね継手(下図のいずれかのようにする)

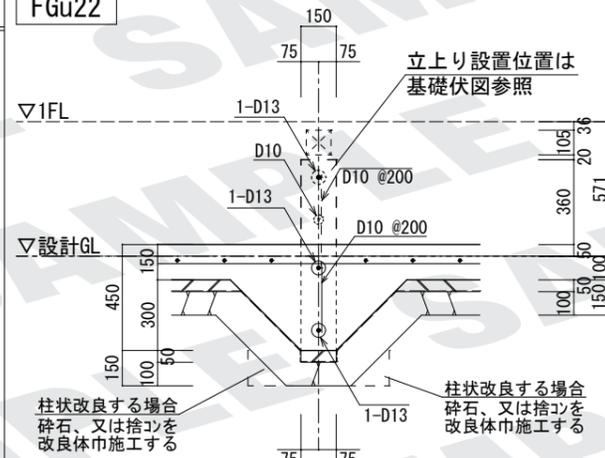


施行令の重ね継手の長さ40dでも可

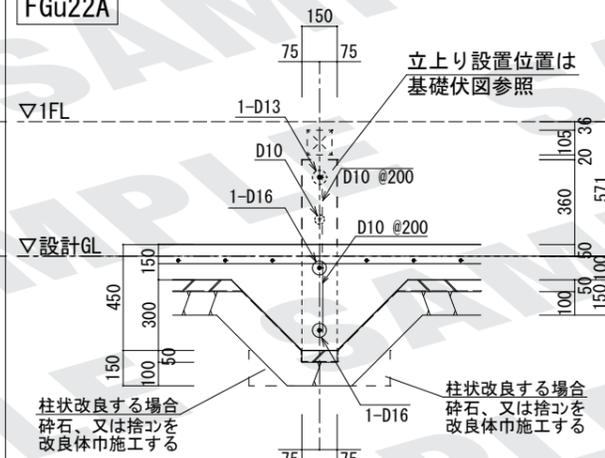
※外端部はピン接合として検討する。



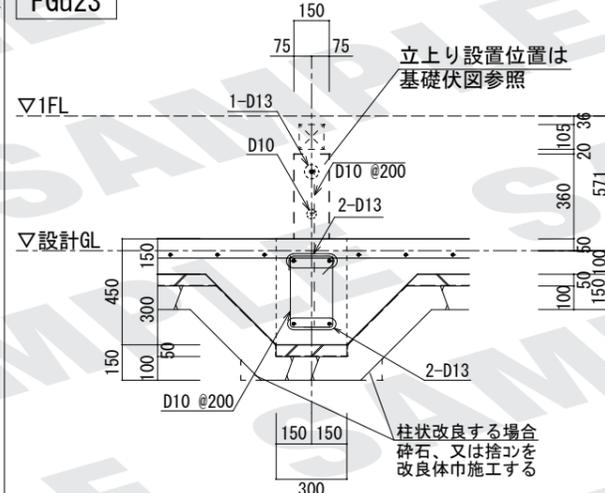
FGu22



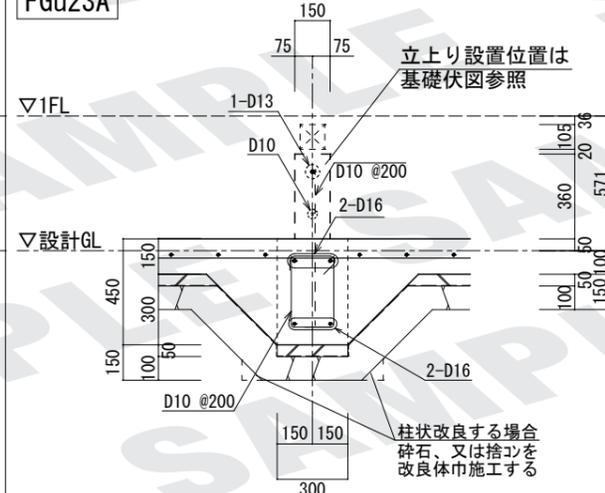
FGu22A



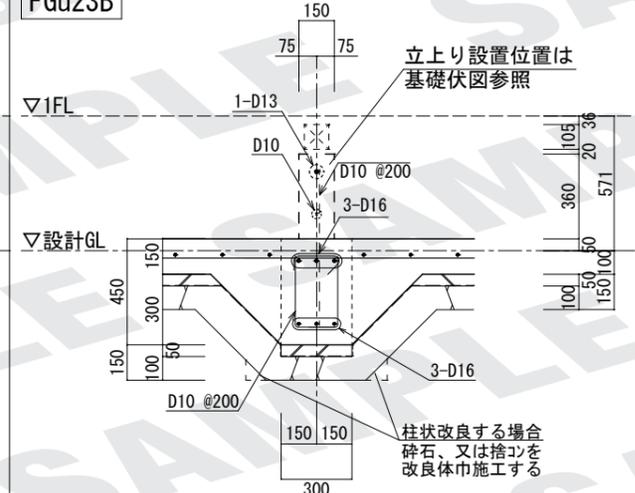
FGu23



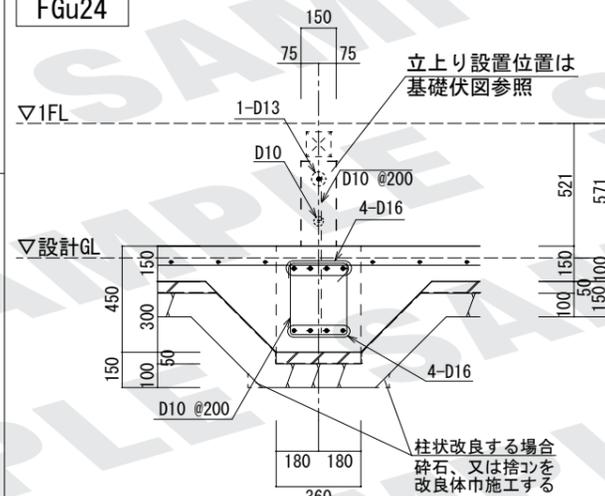
FGu23A



FGu23B



FGu24



- ※現場組鉄筋の場合は、縦筋端部をフック付し、必要な定着を設けることとする。認定ユニット鉄筋の場合は、縦筋端部のフックの省略が可能。認定ユニット鉄筋の規定を順守すること
- ※基礎断面図はユニット鉄筋として作図してあります。
- ※床付面は地盤面を荒らさぬように注意すること。
- ※床付面は既存状況により荒らされた場合、現場の状況により捨てコンクリート厚を増すこと。
- ※捨てコンクリート・砕石地業の厚さ・有無は施工者の判断による。
- ※捨てコンクリートを省略する場合、以下に注意すること。
- ①不陸差による型枠・鉄筋の高さ位置を正しく決めるのが困難なため、型枠・鉄筋を保持する台などを設ける
- ②根切り底面の安定化を図るため砂・砂利・砕石を十分に締め固め、表面を平滑に仕上げる
- ③根砂・砂利・砕石が乾燥しているときなど、コンクリートが急激に脱水してしまうおそれがある場合は散水する。
- ④規定のスラブ厚を確保する。

構造設計者 ダイガク二級建築士事務所 二級建築士事務所埼玉県知事登録第(2)11349号 二級建築士茨城県知事登録第12317号 大槻 学	施主承諾 営業 設計 工事	訂正図面作成日 訂正日 H 訂正日 H 訂正日 H 訂正日 H	MEMO	PROJECT TITLE	SHEET NO
	DRAWING BY : DATE : 2023/01/21				DRAWING TITLE 基礎断面図 (5)